

2024年10月22日
プレスリリース No.016-24

引佐耕作隊 稲刈りの実施について

静岡文化芸術大学「引佐耕作隊（いなさこうさくたい）」は、本学の学生有志によって結成され、2016年から浜松市浜名区（旧北区）引佐町「久留女木の棚田」において耕作放棄地を活用し、米作りを行ってきました。「引佐耕作隊」は、収穫したお米の販売を通して、「棚田の多面的機能」について伝えています。さらに、販売収益を活動費に充てることで持続可能な活動とすることを目指しています。

今年度は、昨年度に引き続き3枚の田んぼ（約480m²）を耕作しています。稲の生育は天候に大きく左右されるため、例年、予想外のトラブルも発生します。今年度は特に、高温障害や水草の繁殖などに頭を悩まされましたが、地域の方々に支えられ、収穫できる運びとなりました。

稲刈りの実施に際して、報道機関の皆様には、是非当日の取材をお願いいたします。

■概要

【名称】静岡文化芸術大学学生団体「引佐耕作隊」による稲刈りの実施

【日時】2024年10月26日（土）10:00～12:00

2024年10月27日（日）10:00～14:00

【場所】浜松市浜名区引佐町久留女木地区「久留女木の棚田」

【参加者】静岡文化芸術大学学生10名（土曜日）、8名（日曜日）

【「久留女木の棚田」について】

浜松市浜名区引佐町にある観音山の南西斜面（標高250m付近）に位置しています。総面積は7.7ha、その中に約800枚の田んぼがあると言われ、その美しい景観は農林水産省の指定する「つなぐ棚田遺産（ポスト棚田百選）」や「静岡県景観賞」にも選ばれています。この棚田は、平安時代が起源とも言われ、特に戦国時代に井伊氏（井伊直虎の祖父）の庇護のもと、開墾が進んだと考えられており、古い歴史と文化を有する棚田です。

しかし、最近の農家の後継者不足から耕作されなくなる棚田が多くなっています。棚田の荒廃により、棚田の美しい景観が損なわれるだけでなく、土砂崩れの抑制や交流の場の創出などの「棚田の多面的機能」も発揮されなくなります。

そこで、本学の学生は「引佐耕作隊」を結成し、2016年度から「久留女木の棚田」で米作りに取り組んできました。現在は、2022年に設立された「久留女木地域振興協議会」が棚田の保全に向けた取り組みをさらに推進しており、私たち「引佐耕作隊」もその活動に協力しています。

【「引佐耕作隊」の活動】

「引佐耕作隊」は、およそ1～2週間に1度の頻度で棚田に通い、田起こしから代掻き、水管理や施肥、除草、稲刈りや脱穀といった米作りの全ての工程を学生主体で行っています。収穫したお米（品種：にこまる）については、「棚田の多面的機能」をデザインしたパッケージに詰め、本学生協購買やメール受注

<本リリースに関する問い合わせ>

静岡文化芸術大学 文化政策学部 文化政策学科2年

原理純（はら さとすみ）

電話：090-1756-3100 E-mail: g2312046@suac.ac.jp

公式Webサイト



にて販売しています。販売収益は次年度の活動費（苗代や肥料代、機械の管理費など）に充て、持続可能な活動になるよう取り組んでいます。

また、会計や広報も学生が担当しています。特に広報面では、毎回の活動の様子や、販売の情報等を **Instagram**、**X（旧 Twitter）**、**Facebook** にて広くアピールしています。

そして今年度も、地域の祭礼行事や草刈りなどに参加し、米作り以外の面でも「久留女木の棚田」、久留女木地区に関わっています。これを通じて、地区全体の課題を見つけ、自らの活動の意義や、今後目指すべき姿を考えています。

【今年度のスケジュール】

5月：代掻き 6月：田植え 7～9月：草刈り 10月：稲刈り 1月：米販売

<本リリースに関する問い合わせ>

静岡文化芸術大学 文化政策学部 文化政策学科 2 年

原 理純(はら さとすみ)

電話:090-1756-3100 E-mail:g2312046@suac.ac.jp

公式 Web サイト

